

ファストリー A (FSLY)

【セクター】 情報技術

【市場】 NYSE

【企業概要】

2011年に設立され、2019年5月に新規株式公開（IPO）を行った企業で、世界有数のコンテンツ配信ネットワーク（CDN）を展開する企業です。CDN業界では比較的后発組であり、他社よりもウェブサイトの表示やコンテンツの配信速度が速い傾向にあるとされています。また、CDN経由で配信したコンテンツは更新・削除に時間がかかるという難点があったものの、同社は「インスタント・ページ」という機能でそれを実現し差別化を図っています。

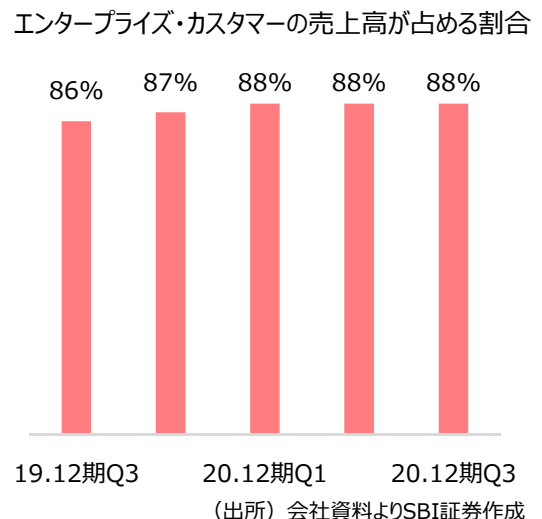
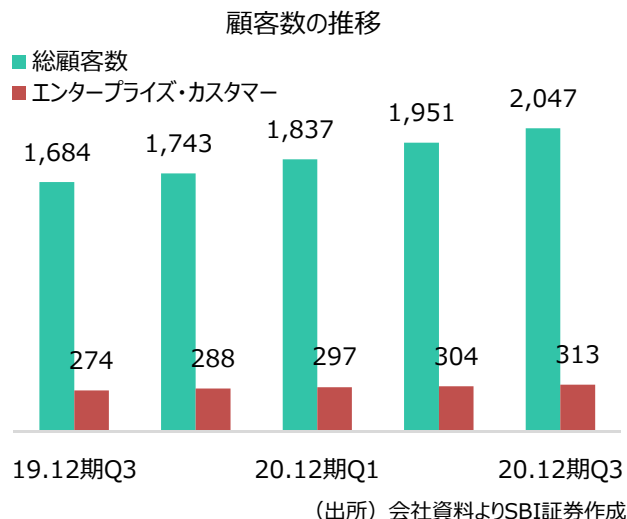
【業績】（単位：売上高、純利益は百万ドル、EPS、1株配当、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース）

決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
18.12期	145	-	-	-	-10.6	-	53.9
19.12期	200	-35	-0.52	0.00	2.7	-	80.3
20.12期（予）	291	-20	-0.19	0.00	5.1	-5.4	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

（出所）BloombergのデータよりSBI証券作成

【主要指標】



【会社の見方】

ファストリーは自社を「エッジ・クラウド・プラットフォーム」を提供する企業であり、単なるコンテンツ配信ネットワーク（CDN）企業ではないと表現しています。日本国内では日本経済新聞社やメルカリ、クックパッドなど、海外ではAirbnb、Pinterest、The New York Timesといったサイトで採用されるなど、多くの著名企業が同社のサービスを利用しています。直近では米中関係の悪化を受け「TikTok」経由のトラフィックを失うなどの問題もありましたが、売上高は右肩上がりに増加しています。

【見通し・注目点】

7-9月期は売上高が前年同期比で42%増となり、4-6月期の同62%増と比較するとやや減速したものの、引き続き高い成長率となりました。7-9月期については「TikTok」経由のトラフィックがゼロとなったことが重しとなりましたが、経営陣は「これほどまでに当社のビジネスに対して強気であったことはない」などと前向きな見方を示しています。

（SBI証券 投資情報部 中川 潤一）

（更新日 2020/11/12）

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したものです。正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。